

平成27年度事業報告

定款第3条及び第4条の規定に基づき次の事業を行う。

1. 柔道整復術の医学的研究に関する事業
 - (1) 柔道整復学の構築を推進した。
 - (2) 富山大学寄附講座で柔道整復学の検証を行った。
 - (3) 地域別に学術大会を実施した。
 - (4) 学術資料及び情報の収集を行うとともに、論文検索システムのバナーをホームページ上に設置した。
 - (5) 日本柔道整復接骨医学会に協力した。

2. 柔道整復師の資質向上に関する事業
 - (1) 生涯学習の実施を推進した。
 - (2) 日整生涯学習講習会を実施した。
 - (3) 生涯学習都道府県会議を実施した。
 - (4) ボランティア活動の実施を推進した。
 - (5) (公財) 柔道整復研修試験財団に協力した。

3. 柔道整復師の養成及び指導に関する事業
 - (1) 柔道整復専門学校及び柔道整復大学等に講師の派遣を行い、学生に対し、医療人としての理解への啓発・教育を行った。
 - (2) 業界案内の冊子を作成した。
 - (3) 会員の加入促進をはかった。
 - (4) 柔道整復大学・短期大学、柔道整復専門学校優等卒業生の表彰を行った。
 - (5) (公社) 全国柔道整復学校協会との協調をはかった。

4. 医療・介護保険制度達成の協力に関する事業
 - (1) 公衆衛生の向上をはかるために医療保険制度改革等への的確な対応をはかった。
 - (2) 医療保険周辺環境への整備と対策を実施した。
 - (3) 医療保険取扱いIT化を推進した。
 - (4) 介護保険対策の推進をはかった。
 - (5) 全国保険担当者会議を実施した。
 - (6) 全国各地域で「柔道整復師と介護保険について」の情報提供を実施した。
 - (7) 各都道府県月別給付実態調査を実施した。
 - (8) 民間医療保険への対応をはかった。
 - (9) 柔道整復療養費の手引き(改訂版)の発刊に向けて準備した。

5. 国民の心身の健全な発達に関する事業
 - (1) 国民の体位向上の推進をはかった。
 - (2) 日整全国少年柔道大会を実施した。
 - (3) 日整全国少年柔道形競技会を実施した。
 - (4) 日整全国柔道大会を実施した。
 - (5) 日整柔道形講習会を実施した。
 - (6) 全日本産業別団体柔道大会に医療接骨部門として参加した。
 - (7) 都道府県柔道整復師会の主催する少年柔道大会に協力した。
 - (8) (公社) 全国柔道整復学校協会主催の柔道大会に協力した。
 - (9) (公財) 全日本柔道連盟の主催する柔道大会に協力した。

6. 国際協力及び貢献に関する事業

- (1) 世界保健機関(WHO)等と協力し、国際交流を通じて諸外国との相互理解の促進をはかった。
- (2) 柔道整復術を世界に発信した。
- (3) 外務省並びに独立行政法人国際協力機構(JICA)の事業活動に協力し、日本の伝統医療である柔道整復術の諸外国における指導者育成及び普及活動を行った。
- (4) (公財)国際医療技術財団の活動に協力した。
- (5) 世界保健機関 ICD-11(国際疾病分類)「柔道整復」の導入に関するデータベース構築事業の準備を行った。

7. 国民の健康・保健・福祉のための普及啓発活動に関する事業

- (1) 機関誌「日整広報Feel!Go!」を発行した。
- (2) ホームページを通じて柔道整復師の活動を広く一般に発信した。

8. 会員の福祉増進並びに相互扶助に関する事業

- (1) 柔道整復師の業務経営について調査、研究し、その充実向上をはかった。
- (2) 法改正、学制改革の研究及び運動を継続推進した。
- (3) 税制改正の要望及び非課税措置の維持を要望した。
- (4) 税務に関する実態調査及び研究を行った。
- (5) 柔道整復師賠償責任保険、所得補償保険、団体生命保険等を拡充し、推進した。
- (6) 日本柔道整復師協同組合に協力した。
- (7) 日本柔道整復師国民年金基金に協力した。

9. 都道府県団体相互の連絡調整に関する事業

- (1) 全国会長会を実施した。
- (2) 都道府県柔道整復師会等と協力し、国民医療に寄与した。

10. その他本会の目的を達成するために必要な事業

- (1) 公益活動の一環として慈善事業の推進をはかった。
- (2) 地域包括ケアシステム構築でのプログラム法内容、第6期(H27~H29年度)介護保険事業計画、健康日本21(第2次)、新健康フロンティア戦略の推進に協力した。
- (3) 組織機構・諸規程の見直し検討を行った。
- (4) 災害の被災者に対する救護・支援活動を推進した。ならびにDJAT(Disaster Judothapist Assistance Team: 災害派遣柔道整復チーム)を中心として災害時の対応を準備した。
- (5) 柔道整復師関連団体間の協調をはかった。
- (6) 業務の省力化及びIT化を推進するとともに都道府県柔道整復師会等の業務のIT化に協力した。
- (7) 外部の有識者を交えたコンプライアンス・プロジェクトチーム会議において組織強化をはかった。
- (8) 世界スカウトジャンボリー2015への参加ならびに東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、ラグビーワールドカップ2019へのサポート推進等をはかった。